



明保だより

令和8年3月3日 第11号
宇都宮市立明保小学校
発行者 小川 史子

目指す児童像の合言葉 **元気 やる気 勇気 思いやり**



🍏🍏🍏🍏🍏🍏一年間のご協力 ありがとうございます 🍏🍏🍏🍏🍏🍏

早春の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、本年度も残すところあとわずかとなりました。この一年、本校に寄せられた皆様の温かいご支援とご協力に、深く感謝いたします。

子供たちは、日々の学習や行事を通して、心身ともに大きく成長しました。家庭と学校が手を取り合い、歩んでくれたことを何より嬉しく思います。間もなく迎える卒業式・修了式が、子供たちにとって輝かしい門出となるよう、教職員一丸となって取り組んでまいります。一年間、誠にありがとうございました。

「正解のない時代」を歩む子どもたちのために



私たちが今生きているのは、変化の激しい「予測不可能な時代」と言われ、これまでの常識が通用しなくなり、AI（人工知能）の進化などによって社会の仕組みもものすごいスピードで変化しています。学校での学習も「テストの点数をアップさせるための知識の獲得」ではなく、「他の学習や生活の場面でも活用できる、生きて働く知識及び技能の習得」を目指しています。こうした中で、これからの時代を生きる子どもたち（自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手）にとって大切なことは何なのでしょう。

1. 「自分らしさ」という根っこ

情報が溢れる時代だからこそ、「周りがこうだから」ではなく、「自分はどうか、どう感じるか」という自分の軸を持つことが、折れない心の支えになります。お子様が何かに夢中になっている瞬間や、小さな成長の兆しを、ぜひ一緒に喜んであげてください。

2. 最も「人間らしい」力 —— 人を思いやる心

そして、変化の激しい時代だからこそ、これまで以上に大切にしたいのが「人を思いやる心」です。どれほど技術が進歩しても、相手の痛みを想像し、手を取り合い、心を通わせることは人間にしかできない尊い力です。多様な価値観を持つ他者と「共に生きる」知恵こそが、困難な時代を切り拓く大きな力となります。「自分を大切にすると同じように、周りの人を大切にできる。」そんな「心の根っこ」を、日々の学校生活の中で育てています。

3. 学校と家庭は、子どもたちの「安全基地」

子どもたちが外の世界で思い切り挑戦するためには、失敗しても、疲れても、そのままの自分を受け入れてもらえる「安心できる居場所」が必要です。

学校と家庭が手を取り合い、子どもたちの揺るぎない「安全基地」となること。それこそが、子どもたちが未知の世界へ一歩踏み出すための、最大のエネルギー源になると確信しています。

